

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・その人に合わせゆっくりとせかさず本人のペースに。 ・ゆっくり話を聞いたり、ご自分で出来ることはゆっくり待ち、行ってもらう。 ・お祭り、作品展に出させてもらっている。 	法人の理念があり、その理念を基に5項目からなるホームの理念を職員で考え作り出した。わかりやすい文言で事務所にも掲示があり、職員は十分理解しており毎日のケアの中に反映している。それぞれのユニットの玄関にも貼られており外部の方々にも示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の時のお誘い ・地域イベントの参加 ・雪かき、草取り 	掃除、お祭り等の地区の行事に参加をしている。ホームで開催するボランティアによる「コーラス」・「マジックショー」、「花火大会」等に地域の方々をお誘いしている。地区主催の市役所支所で行われる作品展やバザーにも出展している。夏休みの間高校生のボランティアの受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも誰でも見学OK ・入居希望の方、いつでも面接、見学OK ・GHIに力つけてから地域の方へ、2年目勉強中 ・実習受け入れ、裾花中学実習受け入れ 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・情報受け必要時検討し、取り入れ(園芸、保育園とのつながり) ・地域住民の参加増員 	奇数月の第3金曜日、2ヶ月に1回開催している。家族会代表、区長、区民生児童委員、市職員、地域包括支援センター職員、近隣の住民等、幅広い分野からの委員で構成されている。活動報告や計画などを議題とし委員の方々の意見・提案を頂いている。委員の方々からも貴重な発言があり、開設から1年のホームの運営に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・推進会議への参加、不席の時は書類届けている。助言いただいた。地域消防団ないため他地域への協力準備中 	市から派遣される「あんしん相談員」の受け入れが毎月行われている。義務的なものではなく相談員の方と入居者・ホーム職員との心通える関係が築かれつつある。市職員が認定調査などでホームに来訪した折には積極的に会話することを心がけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・情報共有に努めている。 ・玄関の施錠はさせていただいてる。(目の前線路) ・入口通る時、毎回ドア開くか確認している人がおり、危険のないよう全員で見張り中 	職員は身体拘束をしないケアについて正しく理解している。ホームのすぐ近くにJRの線路があり危険が考えられるので家族了解のもと玄関の施錠はしている。居室の鍵はしていない。ふらつきや転倒の危険のある方の居室には鈴を付けるなど工夫し安全面に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・否定しない介護(言葉使い) ・常に言葉による虐待にならないよう注意している。少しでも気になる行動の時、注意出来る自分になれるよう努力中 		

グループホームコスモスあもり・あさまユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・必要な方に行っている。 (書類出した方一人あり)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入居時AM1人、PM1人とゆったりとした入居の受けをしている。 ・書類にサインをいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・家族会議やお便りでお聞きしている。 ・面会時お聞きし、実践に努めている。	「グループホーム生活記録」を毎月家族のもとへ送っている。1ヶ月の日々の生活記録に加え担当職員の言葉を添え入居者の現況を伝えている。また家族会が設けられており、年二回家族の集まる機会が計画されている。意見箱も玄関先に設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・出来ていないと思う ・職員会議で検討している ・運営会議でも意見をお聞きし、努力している	月に1回、原則第1水曜日午前中に定例会を開き、日々の業務の改善、入居者のカンファレンス、勉強会などを行っている。研修参加者が他の職員への伝達研修などをし、研修内容の共有化にも努めている。職員間の縦、横の関係は良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・家庭の都合を取り入れている ・検診年2回、リフレッシュ休暇有り ・個々の職員へほめ言葉があった時は本人に伝えお礼を言っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・出来ていると思うが、研修の機会を多く欲しい ・GH同士での研修、老健の研修に参加		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・職員会議で報告 ・他のGHを参考に 善光寺平ネットワークへの参加 ・近所、デイの方との交流		

グループホームコスモスあもり・あさまユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・傾聴により、不安、要望を知り、心情面でも努めている ・入居前、デイ、入所先、HP等へ面接に行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・担当が適宜に対応 ・面会時も大切にしている。 ・生活記録で呼びかけている。 ・ケアプラン作成時に注意している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・情報源より出来ている ・入居前数回体験入所(訪問)された方あった		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・尊厳心で対応中 ・いつでも声かけてもらえるよう努力中、家族のような関係になれるよう飾りない言葉で会話		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・生活記録通しを行っている ・一方的な態度にならないよう努めている ・遠方の家族の方とはTellにはなるも数多く機会を持つようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族よりの聞きとりを基に出来る限り努めている ・行きつけの化粧品店、美容院、生まれた地域への散歩	家族は元より昔の職場の同僚、サークルの友人、自宅近所の方等が来訪している。ホームのある地元地区出身の入居者が半数以上を占めており、必要なものを自宅にとりにいたり近所を散歩している時などに知人と出会うこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・レク、作業等を通し、同じ作業をしてもらう		

グループホームコスモスあもり・あさまユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院で退所になった方に面会に行ったり、相談受けたり動きは連絡受けていた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・出来ていると思う ・カンファレンスで行っている ・ケアプラン作成時に	概ね意思表示を出来る方が多く、職員が会話の中から思いなどを把握している。入居者の生活歴を尊重しケアに活かしており、開設よりの良好な関係作りにより当初のアセスメント意外の入居者の特徴が少しずつ判ることもある。入浴介助などで一対一の関わりを持つ時、入居者から直接的あるいは間接的に注意を受ける場面もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前の情報でできていると思う(センター方式)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・細かく記入し申し送り等は出来ている(食事量、排泄、食事の形態、その他日の気分)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・出来ていると思う ・変化があった時は変更をかけている	入居者の担当制をとり各職員が1~2人を受け持ち、各ユニットの計画作成者と話し合いながら作成している。見直しの期間も定め行っている。家族へはプラン作成時の電話や面会等で内容を伝え、了承を得ている。担当以外の入居者のケアプランに関しても個々の計画内容を職員一人ひとりが把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・定期的なカンファレンスで ・毎日の申し送りで ・記録や情報交換で ・ファイルは常に事務所に置く		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・当日の外出、外泊OK ・当日の自宅への外出(息子さんへのOKもらってから)		

グループホームコスモスあもり・あさまユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・商店、美容院へ、床屋さんの協力 ・文化祭への出品、地域の方の推進会議増員 ・消防訓練参加 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回の往診時の全員診察 ・歯科、眼科へ家人との紹介状 	<p>家族の希望で入居前のかかりつけ医よりホームの協力医療機関へと変更している。毎週医師の往診があり、家族にとっては安心の材料となっている。歯科に関しても協力歯科医がおり家族の付き添いで受診をしている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡は細目に出来ている ・必要時クリニックへの同行 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・できていると思う ・2人入院があった時も、必要時食事介助に行ったり、忘れられない頻度の間隔での面会時、職員と情報交換を行ってきた 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・2年目これからは話題にしていかなければいけない ・カンファレンスを多くし、話題になっている ・入居時は書面で説明してある。 	<p>開設間もないためホームでの直接の看取りはまだない。「利用者の状態が重度化した場合における対応についての同意書」があり、「重度化した場合における対応に係る指針」が示されている。入居者、入居者家族、医師、管理者協議の上で個々の対応をしていく方針である。</p>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・必要時受けている ・職員会議で勉強と機器の使い方 ・なかなかまだ身についていない、まだ経験ない者多い 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回行っている防災訓練 ・水害、地震では不安がある ・水害等は中学へと勉強会でやっている ・床屋さんへの有事の避難場所、OKもらっている 	<p>年二回入居者、職員参加で防災・通報訓練が消防署指導のもと行われており、そのうちの一回は夜間を想定し実施されている。ホームには消火器・スプリンクラー・火災報知器が設置されている。地区の消防・災害訓練に参加している。</p>	

グループホームコスモスあもり・あさまユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・常に人生の先輩であると意識して尊厳を忘れずに対応中 ・もし自分だったらと頭において接している 	呼び方は、苗字に「さん」づけで呼び、同じ姓の方のみ名前で呼んでいる。目上の方に接する対応が自然とされている。「入居様の心に寄り添い、想いに共感する」との理念通り、入居者の行動を第一と考える職員の姿を垣間見ることができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・危険のないことを見極めた上で本人に決めてもらっている ・伝わらない(理解)事(人)もあるのだが、筆談もあり 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・なに…を提案し、その事に対し希望に沿ったものを取り入れている ・まず聞いている 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒゲ剃り、化粧 ・汚れたら取りかえる ・長い髪の方は丸めたり結んだり、又髪飾りを当てている 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来る食器洗い、切る、混ぜる、盛り付け、味見等 ・希望される献立をたてる ・作業的にならないように気をつける ・誕生日は希望の昼食を出している 	毎日の食事作りに入居者の方々が参加されている。調理の手助けや後かたづけのお手伝いなど、出来る力を発揮してもらうことで入居者の喜びへと変えている。食事中は自由に会話をしながら職員と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな飲み物に変えている ・水分に関してはまだ不十分 ・支援しているもまだ不十分 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・週1回のポリデント使用、歯ブラシを日に干す ・必要な人には介助 ・仕上げは職員でする方が多い ・やったからいいと断られる方で心配な方がいる 		

グループホームコスモスあもり・あさまユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・出来る方にはしてもらうよう新聞紙を処理用にトイレに置いてある ・パターンを知り、必要な数名のみ介助 ・失禁なくなるように誘導表活用 	自立の方やリハビリパンツ・パット使用の方など個々の対応をしている。夜間のみポータブルを使用する入居者が若干名いる。支援が必要な方には排泄チェック表により時間を見計らい、呼びかけ、誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な散歩、体操、体位(椅子へ座るときの背) ・個別の食事ではなく飲むヨーグルトへ移行 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・都合お聞きし、順番を決めている、翌日になることもある ・毎日入りたい人もいるだろうが、毎日入れている 	最低1週間に二回の入浴をしている。 市販の入浴剤等は使用せず、米糠袋など入居者にとって懐かしい自然素材を使用している。 長く入浴をしたいという方への対応など、入居者からの希望は尊重している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・午睡は個々に行ってもらっている 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・拒否の場合は時間をおいている ・カンファレンス通し勉強中 ・まだ薬の内容、効用までは達していない。課題です 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時の生活歴で周知 ・嗜好品は理解していると思う ・もう少し時間の使い方が上手になればと思ってる工夫中 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・行事での外出は車イス利用で大勢参加 ・ドライブ、買い物、散歩を少しずつ、2年目となり、インフルエンザもなく出来ている、さらに深めていきたい 	行事的な外出は法人本部の車を借りて定期的に行われている。善光寺参り、茶臼山へのお花見めぐりなどドライブを兼ねての外出は入居者に喜ばれている。	地域での中での短時間の散歩や近所のスーパーへの買い物に同行するなど、車椅子使用の入居者も含め、可能な限り外の空気に触れまた日常的な地域の方々とのふれあいの場が出来ることを期待したい。

グループホームコスモスあもり・あさまユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・使用場面今は無し ・預かっている ・善光寺参りはお賽銭を渡し、ご自分でいれてもらった 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・希望あれば行っている。7人程あり 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・季節感の出る飾り物(5月人形、お雛様)を作り飾る ・切り花を飾る 	<p>ユニットの玄関は別々にあるが、建物内部では廊下で繋がっていて、入居者が自由に行き来している。平屋造りであるのでリビング兼食堂も南向きで明るく、塗り絵作品の掲示や行事の飾り付けがされている。南面にはベランダが設けられており、接して菜園もあり、入居者の手で夏野菜が育てられている。長野の冬の名物、えびす講の花火もリビングから一望でき入居者の楽しみとなっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・心掛けているも、もう少しスペースがあれば 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・思い出の作品を飾っている ・安全、安心出来る居室になるよう毎日掃除に力を入れている ・好みの家具の持ち込み、ベッドの位置 	<p>テレビ、筆筒、椅子など各入居者のそれぞれの気に入ったものが持込まれている。手作業による飾り物や折り紙なども飾られている。居室にはエアコンが設置されており、職員の手により時間・温度の調整が行われている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・入口にぬいぐるみ ・カーペット ・ベッドに当てる物 ・危険な人にはゴミ箱除去 ・ドアに鈴 		